

こま いわさか
**狛・岩坂周辺の
古墳探訪**

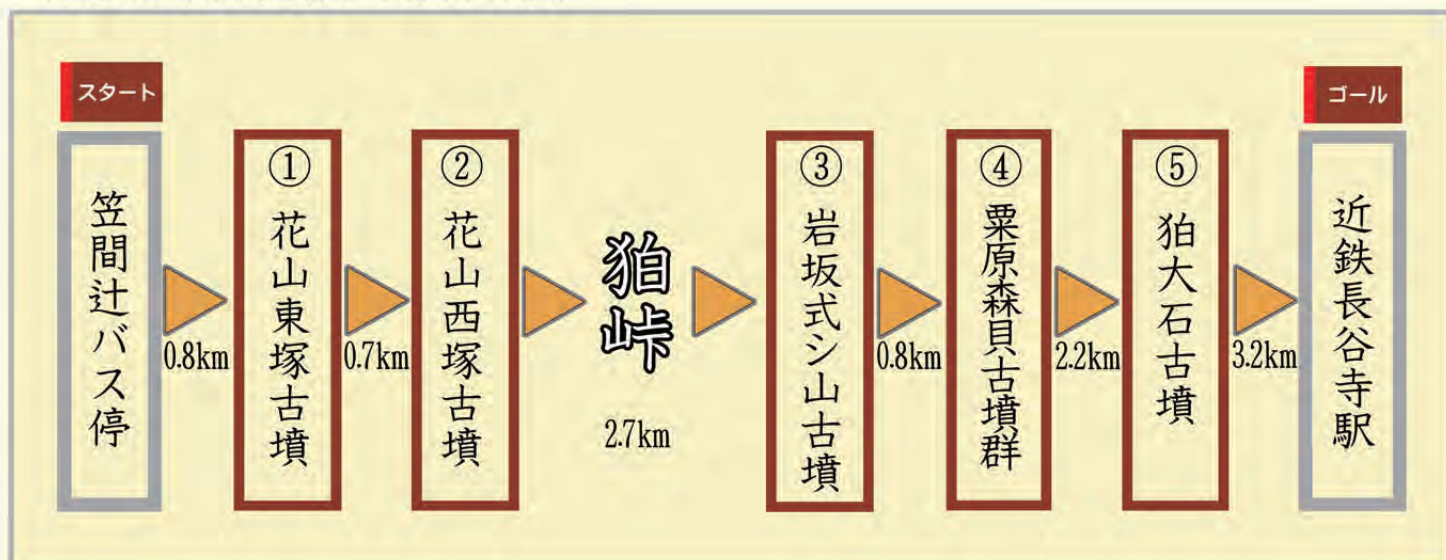
岩坂式シ山古墳

～ 体験しよう！桜井の古墳ワールド！ ～

狛と岩坂の集落は縦断し流れる狛川の上流に位置し、主に西岸が岩坂、東岸が狛という位置関係です。今回のコースは粟原地区から狛峠を通り、狛・岩坂を訪ねるマニアックな古墳探訪コースです。粟原では磚積式石室で知られる花山東塚古墳と花山西塚古墳を訪ね、その後、狛と宇陀をつなぐ狛峠に向かいます。万葉歌人、柿本人麻呂も通ったといわれる峠です。続いて一人では行きにくい岩坂式シ山古墳や粟原森貝古墳群をご紹介します。古代のタイムカプセルともいべき古墳の数々を、歴史の息吹を感じながらこの機会に是非体験ください。

モデルコース(※全行程約10km)

桜井駅から笠間辻までバス利用の場合



笠間辻のバス停の場所は季節により変動しますのでご注意ください。

古墳探訪・・・その前に

日本のはじまりの地、桜井市には、女王卑弥呼の墓ではないかと言われる箸墓古墳をはじめ、桜井茶白山古墳、メスリ山古墳などヤマト王権発祥の地に相応しい古墳が数多く残ります。

そんな桜井の古墳の中で今回、ご紹介するのは桜井市の東部に位置し、宇陀地域に隣接する粟原や狢・岩坂にある古墳です。その多くは尾根の斜面を削り、平坦面を設けそこに古墳を築造した終末期の古墳です。石室規模は小さいながら花山西塚古墳など、我が国の磚積式石室を代表する古墳などがあり、興味をそそられます。

日頃あまりスポットライトがあたることの少ない地域ですが、そこに営まれた古墳は歴史上重要な意味をもつものと考えられ、古墳ファンなら一度は訪ねてみたい隠れスポットです。

お出かけの前には以下の事に留意され古墳探訪をして頂くようお願いいたします。

①マナーを守ろう！

○今回、ご案内の古墳の多くは横穴式石室が開口しており、石室内に入り見学する事ができます。しかしながら古墳は文化財であると同時にお墓であるという事を忘れてはなりません。近くに所有者の方、あるいはご近所の方がおられれば、お声がけしてから入ってください。

○古墳の石材や遺物を持ち帰ることは法律により罰せられます。

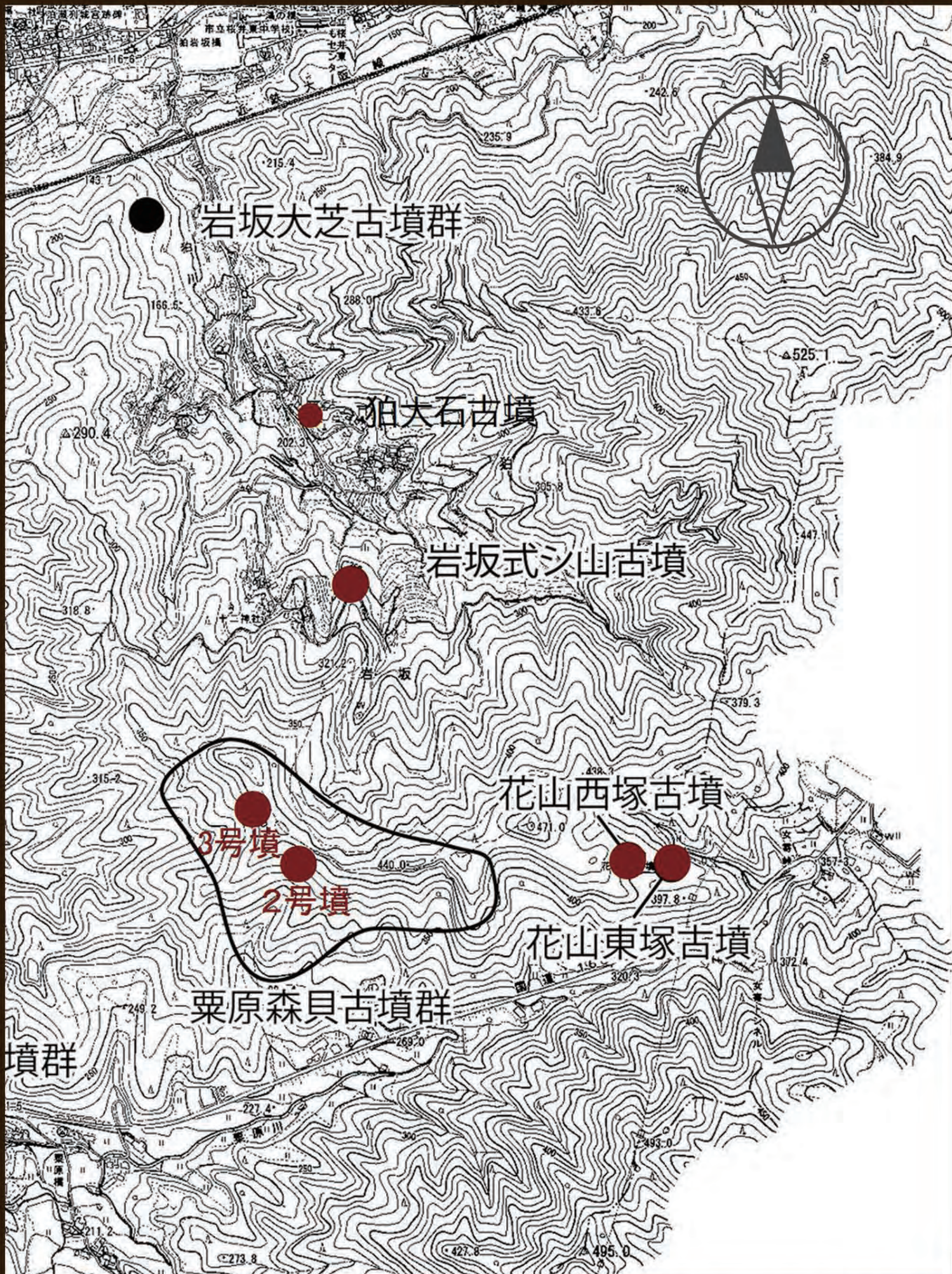
○古墳の多くは、民有地ですので所有者の方に迷惑をかけないように配慮願います。

②安全に！

場所によっては、雑草や熊笹が生い茂り、道なき道を探索する場合もあるかと思しますので、くれぐれも安全対策の上、お出かけください。(このコースでは軽登山靴、ウォーキング用の杖、軍手、帽子、磁石、懐中電灯、GPS付携帯電話等の装備をお願いいたします)

狛・岩坂周辺古墳マップ

●印はこの冊子で紹介している古墳



このマップは桜井市文化財協会発行の「桜井の横穴式石室を訪ねて」から引用しています。(一部加筆)

古墳探訪ガイド



岩坂式シ山古墳

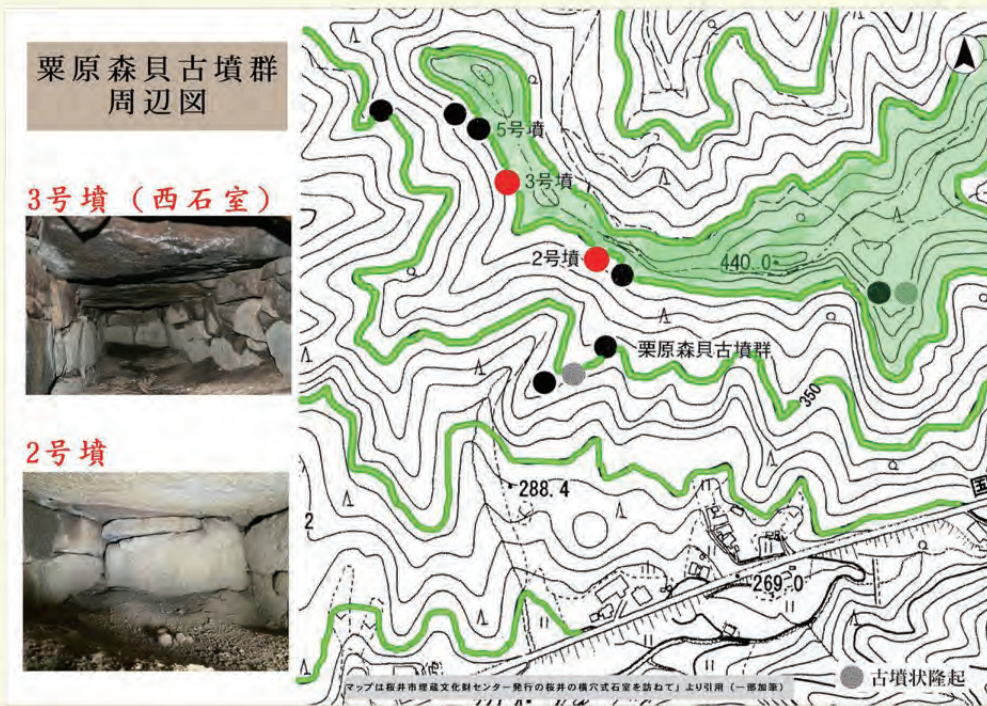


- ①花山塚古墳から元の国道筋に戻り、左方向に進みます。(上り坂になります)
 - ②少し歩くと写真のような標識があるので名阪国道側に進みます。
 - ③5分ぐらい歩く(下り坂)と狛峠に向かう細い道があるので左に曲がります。
 - ④しばらく道に沿って歩くと写真の箇所舗装が無く、ここからが狛峠です。足元に注意しながら道なりに沿って進みます。
基本的には下り坂になります。
 - ⑤約15分ぐらいで狛峠の出口に到着です。(出口付近には行先表示がありますので、左の岩坂方面の道に進みます)
 - ⑥10分近く歩くと、見えにくいですが、左手の上に小さな墓地が見えてきます。
 - ⑦墓地の反対側の崖から道なき道を目印のテープを確認しながら降りていきます。(ここから約2分です)
 - ⑧見つけにくいですがこれが岩坂式シ山古墳の開口部です。
- (注) 岩坂式シ山古墳を単独で探索される場合は当コースの逆コースからがおすすめです。
(十二神社方面から岩坂式シ山古墳を目指してください)

栗原森貝古墳群



- ① 岩坂式シ山古墳から、もとの道に戻り、1～2分、十二神社の方向に行くと三叉路があり、軽四が通れるくらいの林道に入ります。
- ② 蛇行した一本道です。道なりに沿って約20～30分歩きます。(特に目標物はありません)
- ③ 途中で写真のような三叉路がありますが右の広い道に進みます。
- ④ 更に進むと三叉路があり(軽四が1台停車できるくらいのスペースがある所)を左折します。
- ⑤ 三叉路から30m前後歩くと向かって右側に比較的雑草や熊笹の少ないところがあります。
- ⑥ ポイント箇所にテープが巻かれていますので注意しながら進みます。
- ⑦ 下のマップを参考に、尾根を降りた所にある比較的見つけやすい2号墳を探索します。
- ⑧ 同様に3号墳を目指します。(看板は写真撮影時に付けたもので、普段はありません)



栗原森貝古墳群は、山奥にあり、目標物となるものもありません。また、古墳群の周辺は部分的に、背丈ほどある熊笹で行く手を阻まれ、リスクが伴います。一応、当マップで紹介はさせていただきますが、古墳ツアーの利用あるいは経験豊富なガイドさん同行で探索されることをおすすめ致します。

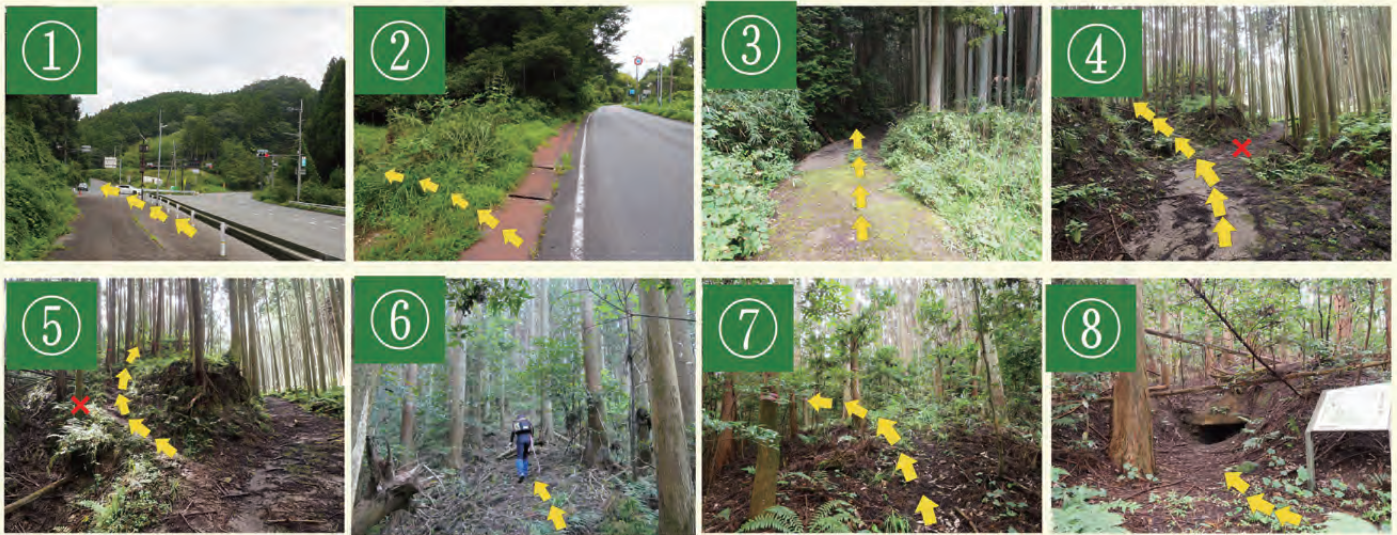
狛大石古墳



- ① 狛と岩坂の分岐点を狛の方に進みます。
- ② 右手に消防機具庫の茶色の建物が見えてきます。
- ③ 左手の民家の擁壁の中に古墳が取り込まれています。
- ④ 正面から見た狛大石古墳の横穴式石室です。

古墳探訪ガイド

花山東塚古墳



(注意)この案内における「笠間辻バス停」は冬期間の駐車場所からのスタートとして記載しています。

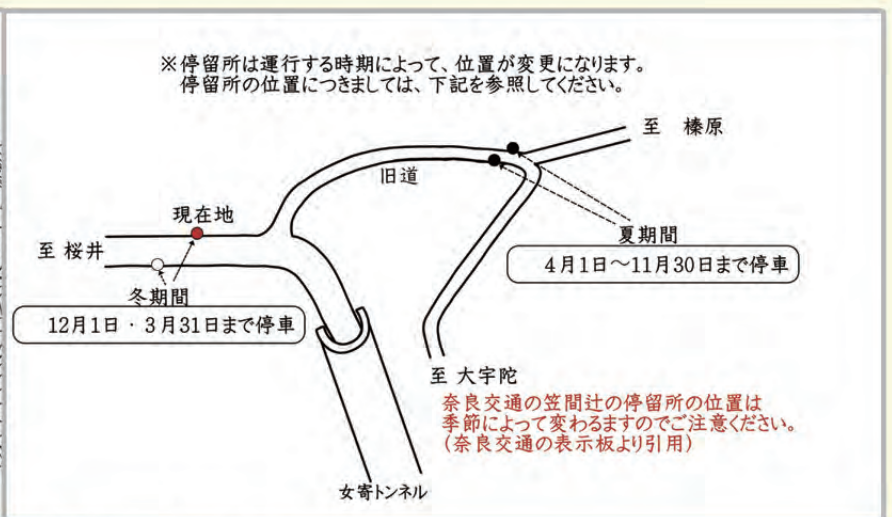
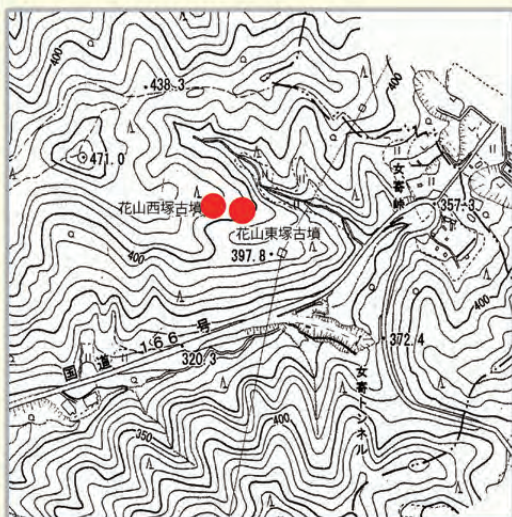
- ①笠間辻バス停で下車し、すぐ手前のある「女寄」の信号を左の道に向かいます。
- ②約100m程歩くと「制限速度50km」の表示板が見えてきます。この手前左側に、花山東塚古墳に向かう林道があります。
- ③簡易舗装されたこの道を道なりに沿って進み、1分前後歩くと右手に黄色いフェンスが見えてきます。
- ④すぐ左手に古墳に向かう山道があります。(古墳までは基本的には上り道が続きます)
- ⑤上り始めるとすぐに、二手に山道が分かれますが、必ず右上に進んでください。
- ⑥そのまま道なりに沿って、緩やかな山道をひたすら上ります。(10分前後)各ポイントに、テープが木に巻き付けられています。
- ⑦更に上り、行き止まりのような所で左折してください。(目印のテープが木に巻かれています)まもなく到着です。
- ⑧少し進むと右側に花山東塚古墳の解説板が見えてきます。石室は開口しており少しかがめば中に入れます。

花山西塚古墳



花山西塚古墳に向かう道は目印になる物がないので下図を参考に花山西塚古墳にある標石を目指し探索下さい。

- ①花山東塚古墳の開口部に向かって左方向に進みます。
- ②木に巻き付けられたテープを参考に基本的には西方向に進んで下さい。
- ③30m前後進むと、少し分かりにくいですが、木々の間から花山西塚古墳の標石が見えてきます。そのまま進むと花山西塚古墳の防護柵が見えてきます。尚、柵の上部に扉があり入出は可能ですが結構きついので体力のない方、小柄な方等は出られなくなる恐れもあり、無理をしないようお願いします。(単独行動は避けてください)



マップは桜井市文化財協会発行の「桜井の横穴式石室」より引用(一部加筆)

狛・岩坂周辺の古墳探訪(1)

身近で磚積式石室を実感できる

①花山東塚古墳



(粟原)



墳形	大きさ	埋葬形式	築造年代	備考
円墳	直径約15m	横穴式石室	7C後半頃	

粟原谷の東端、女寄峠手前の標高約400mの尾根の南斜面に花山東塚古墳は築かれている。墳丘は尾根の斜面を馬蹄形に整形し、中央部におよそ直径15m、高さ3mの墳丘を築造している。同じ尾根の北西約50mにある花山西塚古墳と立地や石室の技法の共通性から、計画的に配置された双墓ではないかと考えられている。墳丘の南に開口している石室は、レンガ状の榛原石を漆喰で塗り固めてつくる磚積墳で、羨道部は既に破壊されているが、残された玄室との関係から横穴式石室と思われる。玄室部は長さ約3.1m、幅約1.5m、現状高は約1.2mでレンガ状に加工された榛原石を漆喰で塗り固め、わずかに内傾させながら積み上げている。(現状見える部分で16段以上)天井部は花崗岩を4石架構し、玄室の壁面には全面に漆喰が施されている。早くから盗掘され出土遺物は全く知られていないが、他の磚積式石室との比較から築造年代は7世紀の後半頃と考えられている。

代表的な磚積式の横口式石槨

②花山西塚古墳



(粟原)



墳形	大きさ	埋葬形式	築造年代	備考
円墳	直径約16m	横口式石槨	7C後半頃	国史跡

花山東塚古墳と同じ尾根上の南斜面に築かれている古墳、南南西に開口する直径約16mの円墳である。埋葬施設は通常の横穴式石室と異なり、羨道と玄室(前室)の奥に奥室が取り付け横口式石槨というタイプに属する。側壁は、榛原石を漆喰で塗り固め積み上げた花山東塚古墳と共通する技法で構築されている。被葬者を安置した奥室は前室より約10cm高い位置につくられ天井部と底石は平石、奥壁は切石でつくられ、前室との境は石扉で閉塞されていた事を示す軸穴の痕跡がある。使われていた石扉は近年まで奥室の前に横たわっているのを目視出来たが、今は土砂で隠れている。前室は側壁を1.2mあたりから内傾させ天井は花崗岩でつくられている。羨道部は前室幅よりも狭く両袖式の形状である。遺物は全く知られていないが、墳丘構造や磚積の技法などから築造時期は7世紀後半頃と思われる。榛原石を使った磚積式石室は榛原や粟原谷筋というごく限られた地域に分布し、朝鮮半島などで見られる様式である事から被葬者は渡来系の人ではないかと考えられる。

古墳探索マニアに人気の

②岩坂式シ山古墳



(岩坂)



墳形	大きさ	埋葬形式	築造年代	備考
円墳	径10~16m	両袖式 横穴式石室	6C後半~7C初	

岩坂に所在する直径約10~15m、高さ約2mの円墳。埋葬施設は両袖式の横穴式石室で、玄室部は奥壁が3段、側壁は基本3段積みで比較的大きめの自然石を平滑面を表面において構築されている。規模は玄室長が約4.1m、幅約1.7m、現状高約1.8mで持ち送りされ天井の幅は狭い。

羨道部は土砂がかなり流入しているが、2段みで現存の羨道長は約2m、幅が約1.1m、現状高1.9mで南東方向に開口する。未調査で出土遺物も不明であるが、石室の特徴などから築造年代は6世紀後半~7世紀初め頃と思われる。初瀬川の支流、狛川の両岸には規模は大きくないものの、横穴式石室を持つ古墳が散在しており、被葬者は初瀬谷に、居住地を持つ有力者と思われる。古くから知られていたと見え、1893(明治26)年の野淵龍潜による「大和国古墳墓取調書」に記されており、この頃には既に開口していたようである。

狛・岩坂周辺の古墳探訪(2)

平滑化された石材の無袖式石室

① 粟原森貝古墳群(2号墳)



(粟原)



墳形	大きさ	埋葬形式	築造年代	備考
方墳	一辺約10m	横穴式石室	7C前半以降	

森貝古墳群は、中女寄(なかみより)から岩坂に抜ける山道の山頂付近にあり、いずれもが南側の斜面を削って平坦面をつくり、墳丘を築いている。2~3基を一つの単位とする群が、3~4つあり10基程度が確認されている。周辺に石材が散乱しており、実際はもつとあつたのかもしれない。築造は7世紀前半以降と思われ、いずれも横穴式石室の規模自体は小さい。2号墳は群の中程に位置し、以前は直径が約10m、高さ約2mの円墳とみられていたが、墳丘周囲に見られる掘割の形状から方墳の可能性が高い。石室は全長4.3m、幅1.1m、現状高が、0.7mの無袖式石室で比較的平滑化された石材が用いられている。側壁はおそらく3段積みと思われるが、現在2段目の上部まで土砂が入り込み石室の中には入れない。

一墳丘に二つの石室を持つ3号墳

② 粟原森貝古墳群(3号墳)



(粟原)



墳形	大きさ	埋葬形式	築造年代	備考
不明	不明	横穴式石室	7C前半以降	

3号墳は一つの墳丘に二つの石室を持つ数少ない双室墳で、桜井市における類例では「舞谷古墳群」などが知られている。墳形は周囲が雑木林でよくわからない。石室は2号墳と同様、土砂で埋まり中に入れませんが、西石室は辛うじて中の様子をうかがい知れる事ができる。石室は長さ4m、幅1mの無袖式の石室で、東石室は長さ3.6m、幅1mと、ほぼ同じ規模を持ち、おそらく同時期に造られた古墳と考えられる。なお、この2号墳の50m北西には群中では最も規模が大きいと考えられる5号墳がある。墳丘の封土や天井石はすでに失われ、奥壁と右側壁の一部しか残っていないが、奥壁幅は1.6mあり、石材は側壁も含め切り石の技法が使われている。

奥壁が辛うじて残った狛大石古墳

③ 狛・大石古墳

(狛)



墳形	大きさ	埋葬形式	築造年代	備考
不明	不明	横穴式石室	不明	

奈良県遺跡地図では15-A-151とあるのがこの古墳である。道路沿いの民家の石垣の下に横穴式石室の奥壁の一部が残されている。未調査で詳細はよくわからないが昭和33年に「桜井市文化叢書」として発刊された小島俊次による「古墳」の中で、この古墳のことが若干紹介されている。これには「西々南にのびてきた尾根の麓、民家の宅地内とその前をとおり道路敷とにまたがってある古墳で、宅地を設けたためかその外形は判明しない。横穴式石室は、ほぼ南に開口していたようであるが、道路の拡張により破壊され、奥壁部を僅かに残しているのみである。その残存部で知る石室の大きさの一部は巾約1.5m現高は約1.5m」と記録されており、この時にはすでに今の状態に近かったものと思われる。